



新しい年に期待すること...そして、そのために

いつものように「あけましておめでとうございます」で新しいスタートをしたい正月ですが、早々に大変な出来事が重なりました。歴史を学ぶ者として、起きてしまったこと以上に起きる前はどうか、そして起きた後に人々はどのようにいったのが重要であると考えます。災害は人の力が及ばないところで起きてしまう自然の現象ですが、私たちの日ごろの努力によって「防災」や「減災」の考えや行動が広まっていくことが大事です。郷土資料館の展示品にも時代ごとの人々の平穏な日常を伝えるものもあれば、戦争や火事などの非常時に最良の生き方をしていた姿を知ることができるものもあります。本年もたくさんの方々のご来館をお待ちしています。



郷土資料館の企画展 お店の広告「いらっしやいませ」展 より、

とてもポピュラーな神様を紹介します。

郷土資料館では企画展を3月10日(日)まで開いています。大安町三里から藤原町の旧中里小学校の校舎に移ってから二つ目の企画展です。今回は、年末年始のあわただしい中で地域の人々にぎわっていたお店屋さんから頂いた広告の品、古い看板、昔の商店街の様子などを展示しています。

展示品の引札(ひきふだ:お店の名前をのせた綺麗な絵画)や団扇(うちわ)は、今でいうならお店屋さんの名前が入ったカレンダーみたいなもので、年末年始にお客さんに配られたものです。とても綺麗な印刷であり、当時の人々の生活や文化を垣間見ることができます。その中でもお正月らしいおめでたい神様の絵を見ていただきます。思わず笑顔になれる庶民の信仰です。

『大黒天』:古くインドに起源のある神、日本古来の大国主神の習合。大黒柱と現されるように食物・財福を司る神となりました。また親子関係から恵比寿と並んで描かれることが多く、図像としては、大黒頭巾をかぶり、大袋をせおい、打ち出の小槌と大袋をもち、米俵の上にすわっています。

『恵比寿』:大国主神の息子さんです。古くは「大漁追福」の漁業の神であり、時代と共に福の神として「商売繁盛」や「五穀豊穰」をもたらす神となりました。七福神の中では唯一日本由来の神です。図像としては、狩衣、指貫、風折烏帽子すがたで、右手に釣り竿、左手に鯛をかかえています。

